

日本大使館主催

日本の知見共有セミナー「稲盛経営哲学－企業経営における倫理」

永井次席開会挨拶

2018年3月6日(火)パンパシフィックホテル

御来賓の皆様、日本大使館主催、日本の知見共有セミナー「稲盛経営哲学－企業経営における倫理」の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

まず初めに、日越外交関係樹立45周年を迎える2018年に、ベトナム国内の企業で働く皆様に、日本の知見をご紹介する機会を持つことができ、大変嬉しく思います。お忙しい中お集まりいただいた皆様に御礼申し上げます。

本セミナーは、稲盛和夫氏が提唱している、倫理観に貫かれた経営哲学をご紹介させていただくものです。

稲盛和夫氏は、京セラとKDDIという大企業を創業し、経営破綻に陥った日本航空を再生に導いた、日本を代表する経営者の一人です。

大きな成果を出し続けてきた稲盛氏の独自の経営手法の一つに、「アメーバ経営」というものがあります。これは、組織を「アメーバ」と呼ぶ小集団に分け、市場に直結した独立採算制により運営する仕組みです。

組織を小さく分割することで、アメーバ毎に経営者意識を持ったリーダーを育成すると同時に、従業員の一人一人が主役となり、自主的に知恵を出し合う「全員参加経営」を実現することを目指しています。

これは、組織が活発化する非常に効果的な手法ですが、この経営手法を導入するために必要不可欠なものが、「フィロソフィ」、つまり哲学なのです。

なぜならば、企業活動は集団で行うものであり、従業員一人一人がバラバラの考え方をしているのでは、何も決めることができなくなってしまうからです。組織のメンバー全員が、物事の判断基準となる考え方を共有することによってはじめて、組織のパフォーマンスを最大化することができるのです。

では、全従業員が共通して持つべき哲学とは、どのようなものなのでしょうか。また、その哲学を、どのように全従業員に浸透させれば良いのでしょうか。

本セミナーでは、稲盛哲学を学術的に研究しておられる日置先生及び高先生、また稲盛氏の下で実際に組織改革とフィロソフィの策定に取り組まれた日本航空株式会社藤田副社長から、お話しいただきますので、日本の知見が少しでもお役に立てば幸いです。

我が国は、これまで日系企業の皆様を含めた当地企業が活動しやすい環境整備のため、関連インフラの整備や産業人材育成の取り組みに対し、積極的に支援してまいりました。

本セミナーが、これらの取り組みと同様、御列席の皆様の企業活動の益々の発展に寄与することを、心から願っております。

最後に、皆様の御健勝と日越関係の一層の緊密化を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。